

# 2019年3月期 第1四半期 決算説明会資料

2018年8月3日@ステーションコンファレンス東京  
7741.T [ADR: HOCPY US] HOYA株式会社

[メモ付ver.]  
説明会におけるコメントや質疑応答を参考情報として記載しております。説明内容をすべて書き起こしたものではありませんのでご了承ください。

## **1. 決算概要**[代表執行役CFO 廣岡 亮]

2. 情報・通信事業概況

3. ライフケア事業概況

4. 総括

5. 質疑応答

## 業績概況

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益	1,272	1,389	+117	+9%
税引前四半期利益	305	352	+47	+15%
四半期利益	252	285	+33	+13%
cf. 通常の営業活動 からの利益	297	353	+56	+19%

四半期最高の売上/通常の営業活動からの利益を達成

## 為替換算の影響

(億円)	前期レート 換算(A)	当期レート 換算(B)	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益	1,389	1,389	+0	+117	+9%
税引前四半期利益	349	352	+3	+43	+14%
四半期利益	282	285	+3	+30	+12%

主要通貨	(A)Q1 FY17 レート	(B)Q1 FY18 レート	変動率
US\$	¥111.42	¥109.53	+1.7%(円高)
EURO	¥124.26	¥129.01	-3.8%(円安)
BAHT	¥3.25	¥3.39	-4.3%(円安)

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

4

当該四半期における為替影響はほとんどなかった。

## 特殊要因について

### 包括利益計算書

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY
収益合計	1,283	1,399	+116
費用合計	978	1,047	+69
税引前四半期利益	305	352	+47

本四半期においては、特筆すべき事項なし

## ライフケア事業 業績概況

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	828	913	+85	+10%
税引前四半期利益	141	174	+33	+24%
cf.通常の営業活動 からの利益	141	178	+38	+27%
cf.通常の営業活動 からの利益率	17.0%	19.5%	+2.5pt	

\*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

6

## ライフケア事業 業績概況(為替影響除き)

Q1 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	910	913	+3	+82	+10%
税引前四半期利益	170	174	+4	+29	+21%
cf.通常の営業活動 からの利益	176	178	+2	+35	+25%

\*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

7

為替要因は小さく、また特殊要因もなかった。  
M&A効果を除くと、4%の成長率。

## 情報・通信事業 業績概況

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	436	466	+30	+7%
税引前四半期利益	167	190	+24	+14%
cf.通常の営業活動 からの利益	166	188	+22	+13%
cf.通常の営業活動 からの利益率	38.0%	40.3%	+2.3pt	

\*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

8



## 情報・通信事業 業績概況(為替影響除き)

Q1 FY18業績の前期レート換算との比較

(億円)	前期レート 換算	当期レート 換算	為替換算 影響額	実質 YoY	実質 YoY(%)
売上収益*	469	466	-3	+33	+8%
税引前四半期利益	191	190	-1	+24	+15%
cf.通常の営業活動 からの利益	188	188	-1	+23	+14%

\*外部売上の数値

## サブセグメント別業績

### ヘルスケア関連製品 売上収益 メガネレンズ/コンタクトレンズ

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	621	696	+76	+12%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	695	696	+74	+12%

\*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

10

メガネレンズはPerformance Optics社の買収効果を除くと、実質3%強の成長率。

## サブセグメント別業績

### メディカル関連 内視鏡 / 眼内レンズ

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	207	217	+9	+5%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	214	217	+7	+3%

\*外部売上の数値

## サブセグメント別業績

### エレクトロニクス関連 マスク&ブランクス / HDD基板

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	335	354	+19	+6%

### 為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	358	354	+23	+7%

\*外部売上の数値

## サブセグメント別業績

映像関連製品  
カメラレンズほか

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY	YoY(%)
売上収益*	100	111	+11	+11%

為替換算影響除き

(億円)	前期レート換算	当期レート換算	実質YoY	実質YoY(%)
売上収益*	111	111	+11	+11%

\*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

13

## 貸借対照表

(億円)	Q4 FY17	Q1 FY18	QoQ
非流動資産	2,045	2,305	+260
流動資産	4,462	4,317	-145
資本	5,307	5,473	+166
非流動負債	157	158	+1
流動負債	1,043	990	-52
合計	6,506	6,621	+115

1 東芝メモリへの出資（270億円）や配当の支払い（165億円）により、現金が減少、流動資産全体では145億円の減少

## キャッシュフロー計算書

(億円)	Q1 FY17	Q1 FY18	YoY
営業活動によるCF	248	258	+10
投資活動によるCF	-45	-322	-276
財務活動によるCF	-171	-169	+1
現金及び現金同等物 期末残高	3,042	2,262	-780

1 東芝メモリへの出資実行により、投資活動に係るキャッシュアウトが276億円増加

財務活動によるCFは、期末配当（165億円）の支払いによる。

## 2019年3月期 Q2予測

(億円)	Q2 FY17	Q2 FY18	増減	増減率
売上収益	1,358	1,391	+33	+3%
税引前四半期 利益	329	338	+9	+3%
四半期純利益	268	275	+7	+3%



1. 決算概要

**2. 情報・通信事業概況** [執行役COO/CTO 池田 英一郎]

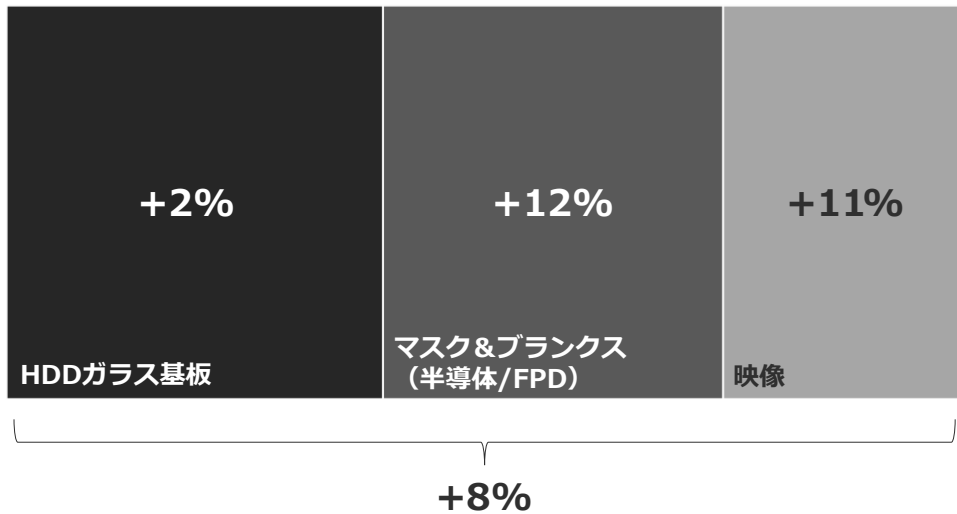
3. ライフケア事業概況

4. 総括

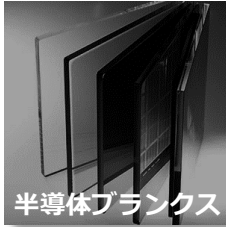
5. 質疑応答

## 情報・通信事業概況

売上増減率（為替影響除き）



## 製品別概況



### 足元

EUV製品と先端品が好調。EUV比率は20%に

### 今後

EUV量産適用に向けた活発な開発により、EUVブランクスの継続的拡大を見込む



### 足元

FPDマスクの中国/台湾メーカーへの販売が堅調に推移。半導体マスクも好調

### 今後

LCD/OLEDともに高精細パネルの開発が活発、需要をしっかりと取り込んでいく

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

19

### 【半導体ブランク】

EUV露光機メーカーの公表によれば、CQ2は4台出荷、1台新たに受注しており、18年に20台の出荷を見込み、19年に30台の生産キャパシティを用意している。

こうした市況もあり、EUVの継続的拡大を見込んでいる。

量産を見据え、これまでR&Dを行ってきた長坂（山梨県）に加え、シンガポールにてEUVの量産対応の製造ラインを設置する。

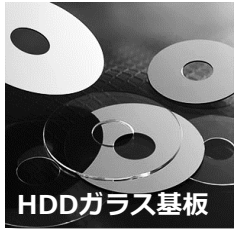
光学方式のブランクも、7nmが順調に進捗、競合に対しても優位性を発揮できている。

### 【FPDマスク】

スマホのフルスクリーン化やノッチ付きや穴あきノッチ付きなど、より多様なパネルの開発需要が旺盛であり、これをしっかりと取り込んでいく。

高精細マスクの需要が高まっているが、製造装置だけでこれを高めることが難しくなっている。マスクやレジストなど、プロセス面での精細化を追及する動きがあり、マスクの産業内での価値が上がってきている。

## 製品別概況



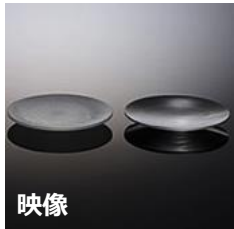
HDDガラス基板

### 足元

NAND供給改善により2.5"が減収も、データセンター用3.5"が拡大し(3.5"比率16%)、増収

### 今後

ハイパースケールを中心にデータセンター需要が拡大、2.5"の縮小の補っていく



映像

### 足元

コンデジレンズが減少も、監視カメラレンズや一眼レフ用フィルター等が順調、全体では増収

### 今後

新規用途におけるレンズ販売を引き続き図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

20

### 【HDDガラス基板】

2.5"売上は10%以上の減少となったが、データセンター用3.5"の成長がこれを補い、増収となった。

ハイパースケールのデータセンター事業者からの認定がひとつ取り取れており、既に稼働しているHDDに関しても、ガラス基板は初めてであるものの、故障率などの問題は見られない。今後の需要を見込み、新工場設立の検討を開始している。

### 【映像】

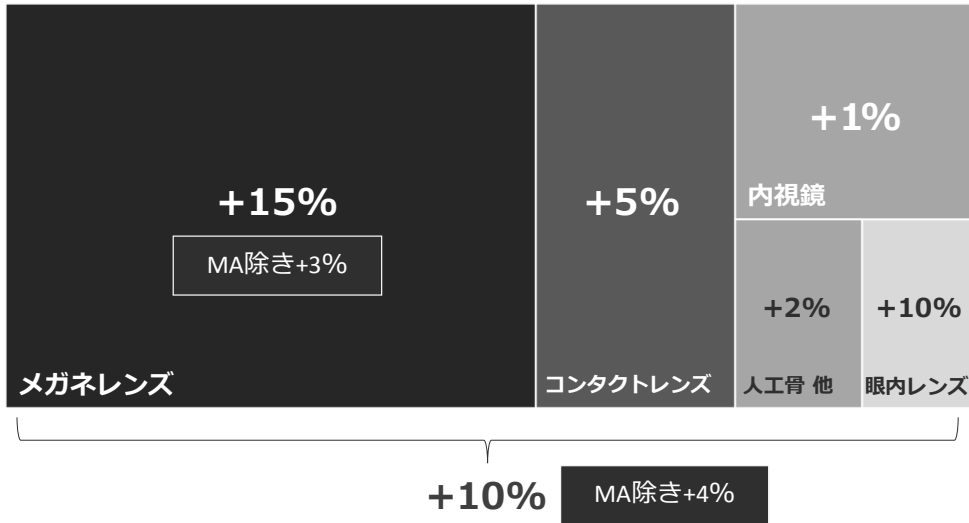
コンデジは20%以上の減少となったが、監視カメラや車載関連などが補って余りある成長。

顔認証などに使われる3Dスキャナ用レンズを中国のスマホメーカーに提供開始した。熱を発するレーザーに対して、プラスチックレンズは耐性が低く、当社のガラスレンズへの引き合いがある。

1. 決算概要
2. 情報・通信事業概況
- 3. ライフケア事業概況 [代表執行役CEO 鈴木 洋]**
4. 総括
5. 質疑応答

# ライフケア事業概況

売上増減率（為替影響除き）



© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

22

## 製品別概況



### 足元

日欧が回復(横ばい)。米国が好調  
増収や製品ミックス等で収益性向上

### 今後

昨年8月に買収したPerformance Optics社との  
PMIを加速



### 足元

既存店が堅調に推移。  
期末店舗数 276店（新規1/閉店1）

### 今後

新規出店の加速を図っていく

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

23

### 【メガネレンズ】

米国で10%強、欧州と日本はフラット、アジアは5%、南米は10%強だった。  
欧州は小売間の価格競争がレンズメーカーへの圧力となっており、市況は芳しくない。

### 【コンタクトレンズ】

若年層の減少により市場は縮小が進むと見ていたが、40代以上の顧客層が老眼用コンタクトを装着するなどの動きがある。

## 製品別概況

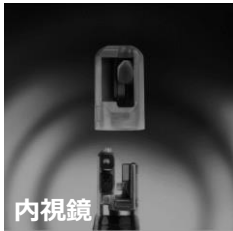


### 足元

新工場（昨年7月～）効果もあり、引き続き成長市場のAPACや欧州での販売数が大幅増

### 今後

直接/間接販売双方による販売地域拡大



### 足元

体制強化等により欧米での販売が堅調に推移

### 今後

ハイエンドから新興市場向けの低価格帯製品まで、新製品を順次発売し売上拡大を図る

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

24

### 【眼内レンズ】

想定よりも早く新工場の稼働が立ち上がってきている。しばらくは2ケタ成長が可能と見ている。

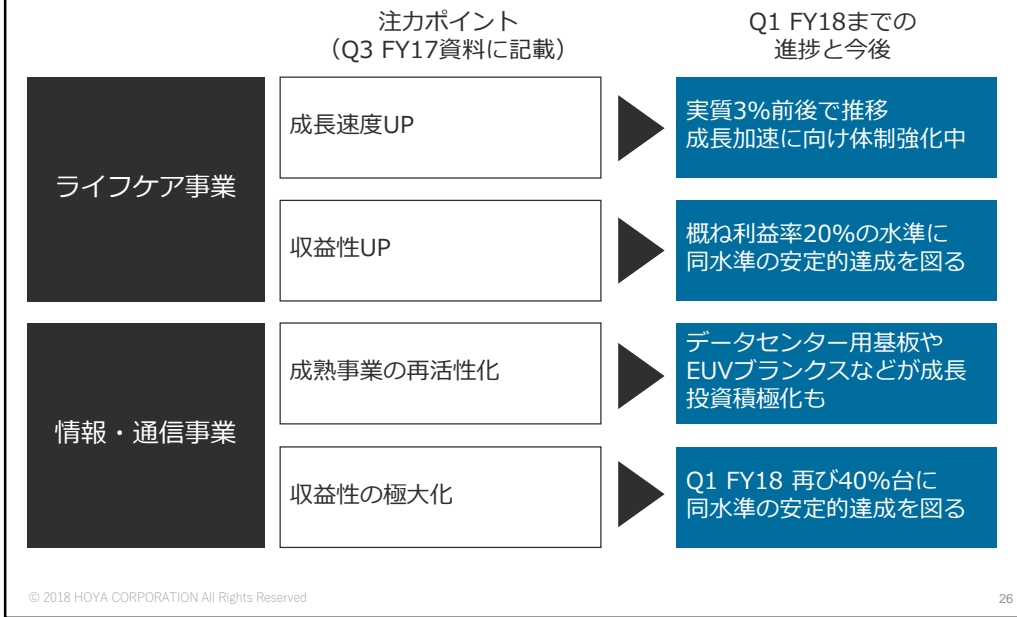
### 【内視鏡】

下期には廉価～中級製品をローンチし、今より高い成長率を目指していく。



1. 決算概要
2. 情報通信事業概況
3. ライフケア事業概況
- 4. 総括[代表執行役CEO 鈴木 洋]**
5. 質疑応答

# 総括と今後の見通し



## 【ライフケア事業】

利益率20%の目標を概ね達成できた。  
今後はこの水準を落とさないように、成長投資も行っていく。

## 【情報・通信事業】

EUVブランクスや3.5" HDD基板への投資を増額、向こう18ヶ月で情報・通信事業の設備投資額が500億円～600億円規模となる可能性も出てきた。  
健全なキャッシュの使い方だと考えている。一方で、株価が下がれば、自己株式取得を検討する方針は変わらない。

1. 決算概要
2. ライフケア事業概況
3. 情報・通信事業概況
4. 総括
- 5. 質疑応答**

## 質疑応答内容-1

Q

[HDDガラス基板]

今後の2.5"ガラス基板減少と3.5"ガラス基板増加の見込み

A

2.5"向け売上は約10%のマイナスが続くが、3.5"向け売上の増加で補い、今期は全体としての売上は微増を目指す。

2.5"に関してQ1はHDD1台あたりに使われる基板の平均枚数が減少した事で売上減少。ノートPCへのSSD浸透はこれから加速していくと見ており、当社業績への影響を注視している。

Q

[ライフケア全体]

Q1実績に関して収益性改善要因と今後の収益性見込み

A

Q1実績：メガネレンズ事業での収益性改善が主要因。主に買収会社との統合の進展、生産性改善などが収益性改善に寄与している。  
今後の収益性見込み：今年年間平均で20%を目指す。来年度は売上増加による工場稼働率向上などで更に収益性を上げていきたい。

## 質疑応答内容-2

**Q** [会社全体]  
米中貿易摩擦のHOYAへの影響

**A** 直接的な影響はない。  
今後、貿易摩擦の影響を受けない、製造から販売までローカルで完結する（地産地消型）のビジネスを米国や中国などで検討していく。

**Q** [メガネレンズ]  
昨年度買収した米レンズメーカー（Performance Optics:PO）とHOYAとのシナジー実現状況。

**A** PO買収は米国でのチェーンでの売上を増やす事が目的の一つ。徐々にシナジーを実現してきており、チェーンの顧客を増やしている。

**Q** [半導体 blanks]  
シンガポールのEUV新製造ラインの規模感と時期は？

**A** 半導体メーカーからの需要に全て応えられるよう、キャパシティを拡大させていく。2020年初に生産開始できるよう、準備を進めている。

## 質疑応答内容-3

Q

[メガネレンズ]

欧州で小売による値下げが見られるとのことだが、どのような影響があるのか？

A

欧州の中でも、とりわけドイツ、イギリス、フランス、スペインといった主要国におけるチェーン店同士の値下げ競争が激しい。(単価の高い)独立系店舗をチェーン店が吸収し、さらに単価が下がる構造となっている。レンズメーカー側においても、主要4社の間で価格競争になりやすい構造であり、これ以上価格下落が進展しないよう、当社としては距離を置いている。

Q

[コンタクトレンズ]

新規出店ペースが落ちているように見えるが、今後の出店の計画は？  
この状況で下期以降も5%程度の成長は可能か？

A

出店は計画どおりに進捗している。  
また、下期以降も5%程度の成長は可能と見ている。

## 質疑応答内容-4

Q

[設備投資]

情報・通信事業の設備投資を500億円～600億円規模に増加させるとのことだが、内訳は？

A

当社の設備投資のベースラインが150億円程度となっており、残りをEUVや3.5”の新工場への投資に充てていく見込み。しかしながら、当社は四半期単位で機動的に動いている会社ということもあり、これらの数字も変わっていく可能性が高い。

Q

[HDDガラス基板]

3.5”基板は2.5”基板の製造ラインを流用しているのか？新工場を予定しているとのことだが、以前あったフィリピンの工場は活用できないのか？

A

2.5”基板の製造ラインを段階的に3.5”基板製造用に改造し、生産している。3.5”基板のデータセンター需要が増加していることに加え、3.5”は2.5”と比べ、面積が倍増、同じ製造ラインでは生産数量が減少することもあり、新工場を設立する必要がある。なお、以前HDD基板を作っていたフィリピン工場は、現状は別の生産設備となったため、HDD基板用に活用予定はない。

## 質疑応答内容-5

Q

[半導体ブランク/ HDDガラス基板]

EUV関連売上は、ブランク売上の何%程度になる見込みか？

また、3.5"基板はHDDガラス基板の何%程度に拡大する見込みか？

A

EUV露光において、EUVが使われるのは数十層あるレイヤーの内、数レイヤー分にとどまることもあり、売上に対する割合はそれほど大きくはならないだろう。

3.5"基板については、現状、記録密度を上げるための次世代技術（HAMR/MAMR）が現状においては実用化されておらず、記憶容量を増やすためには、薄くして多枚数化することが主流となっている。こうした状況もあり、ガラス基板売上において3.5"は大きな割合を占めるようになるだろう。



## 質疑応答内容-6

---

Q

[メガネレンズ、コンタクトレンズ]  
それぞれの事業責任者の退職について

A

それぞれの事業責任者の退職に伴い、メガネレンズは鈴木、アイケアは池田が兼任している。後任を早急に探している。

Q

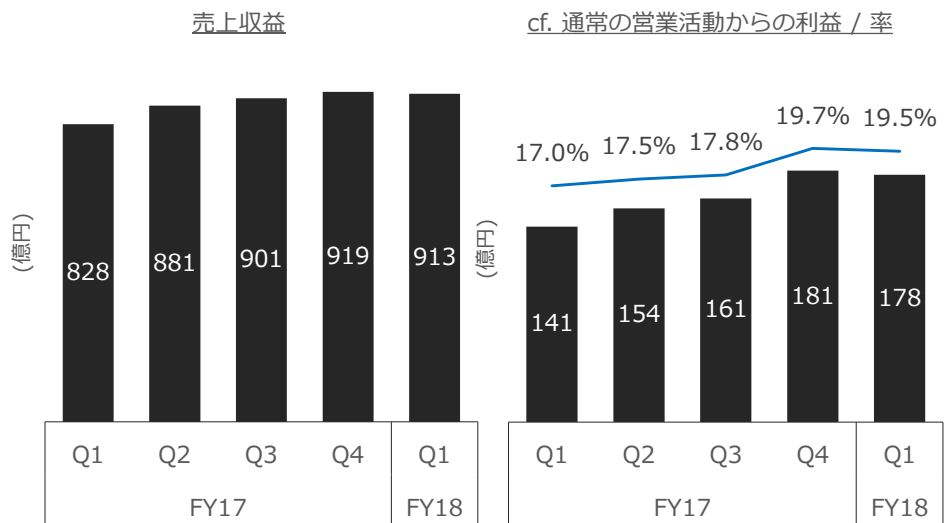
[設備投資]  
ライフケアでの今後の大きな設備投資予定は？

A

現状において、ライフケア事業で大規模な設備投資の増額予定はない。  
メガネレンズにおいて、米国での生産能力の増強の検討は行っている。  
M&Aは随時、様々な案件が動いているが、コメントはできない。

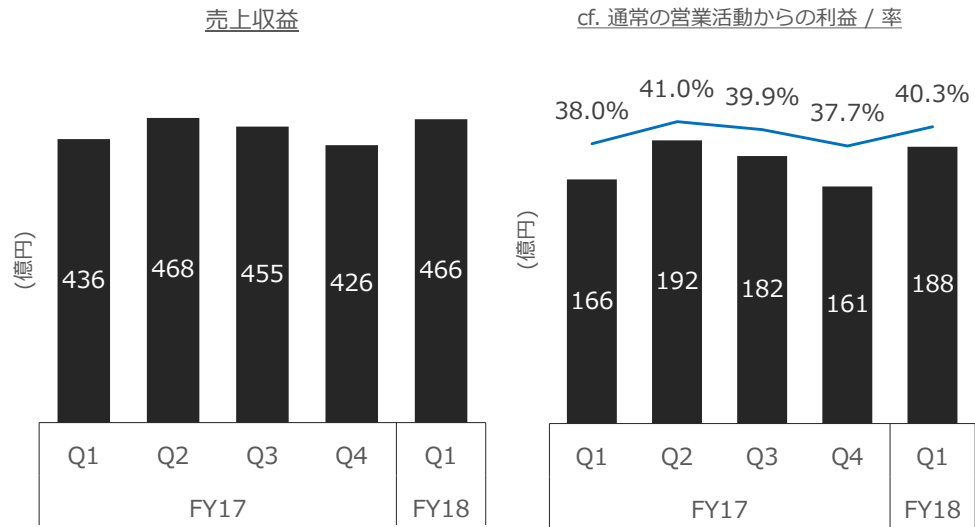
# Appendix

# ライフケア事業 QoQ推移



\*外部売上の数値

## 情報・通信事業 QoQ推移



\*外部売上の数値

© 2018 HOYA CORPORATION All Rights Reserved

36

## 本資料の表記について

---

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2018年4月～2019年3月の会計期間を2019年3月期もしくはFY18と表記しています。
- ✓ 第1四半期、第2四半期、第3四半期、第4四半期をそれぞれQ1, Q2, Q3, Q4と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。  
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 通常の営業活動からの利益は、税引前利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。  
<http://www.hoya.co.jp/investor/kessan.html>

## 免責事項

---

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承下さい。当資料に掲載されている将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。